

は じ め に

地球温暖化による異常気候やエネルギー不足などで、環境にやさしい経営や製品の生産を通じて温室ガス排出を減らそうというグリーンエコノミー(Green-Economy)が世界経済の主要な話題となっている。しかし、最近では持続可能な成長のために、自然生態系にすでにある循環システムを基盤にした体系的な技術で優れた経済性をもつブルーエコノミー(Blue-Economy)が注目されている。従来の親環境経済(グリーンエコノミー)を越えたブルーエコノミーは雇用の創出など持続可能な成長のため新しい経済パラダイムとして産業界全般に広がっている。その中でも特に再生エネルギー分野に対する関心が高まっている。

2009年の再生エネルギーの構成比は世界のエネルギー最終消費の16%を占有していて、2035年には33%まで拡大する展望である。韓国でも2010年に1次エネルギー供給の2.61%を占有している。特に太陽光と風力を中心に市場が拡大していて、燃料電池とバイオエネルギー分野などの成長が予想されている。燃料電池の生産量は2006年以後2010年まで年平均124.40%の増加率を示した。太陽光(115.14%)と地熱(52.36%)、風力(30.95%)、バイオエネルギー(28.77%)等も年平均約30%以上の高い増加率を現わしている。これに伴い、再生エネルギー分野の製造企業体数も2004年の46社から2010年に215社に拡大し、従事者数も2004年の826人から2010年に1万3,380人に急増した。2004年に1,461億ウォンに過ぎなかった売上額も2010年には8兆1,282億ウォンを記録、年平均95.38%増加し、2011年には前年対比78.48%増の14兆5,072億ウォンを記録すると推定される。

このような状況をふまえて、当研究所は再生エネルギー産業に関する世界各国の政策動向と太陽光、太陽熱、風力、バイオ、水力、燃料電池および水素、廃棄物、地熱、石炭ガス化/液化、海洋など再生エネルギー産業の主要11分野に対する世界および韓国市場の動向を総合的に分析し、主要企業のビジネス動向と戦略を整理した。

本報告書が、再生エネルギー市場への参入および新規事業を計画する業界や、研究および政策機関の市場分析とマーケティング、経営戦略の立案などに役立つことと同時に、再生エネルギー産業の発展ならびに再生エネルギー市場への理解に微力ながら助けとなることを願ってやまない。

2012年 5月

韓国産業マーケティング研究所
所長チェ・ソンウォン
gooddaycsw@naver.com